

科目名 Course Name	法学応用 Jurisprudence Plus			ナンバリング No.	A3-008		
年次	2年	期別	前期	単位数	2	授業形態	講義
担当者氏名	宮下義樹						
連絡方法	C-ラーニングまたは教室、非常勤講師室						
必修/選択	選択						
関連 DP	DP1 DP2 DP4						
授業の概要と到達目標	<p>【授業の概要】</p> <p>法とこれにかかわる事項について扱う。法に関する知識を深めていく。社会人としてさまざまな問題を考えられるように、さらなる知的発見を得られる場とする。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 法的な思考に基づいて論じることができるようになる。</li> <li>2. 法とは何かについて論じることができるようになる。</li> <li>3. 社会におけるさまざまな問題について憲法という観点から論じることができるようになる。</li> </ol>						
授業の方法	教科書及び配布したレジュメに沿って講義を行う。毎回各テーマについての講義を行い、講義最終日には最終的な知識を確認するために試験を行う。 また、自主レポートについては随時受け付ける。						
学習成果	L01						
	L02	学生は、法的思考に基づいて社会におけるさまざまな事象について考え、社会人としての基本的思考能力を修得することができる。					
	L03	学生は、日常におけるさまざまな事象について、法的な視点から分析をすることができる。					
	L04						
課題に対するフィードバック	講義のなかで対応する。						
教科書/参考図書	<p>【教科書】</p> <p>青山武憲『憲法講義』(八千代出版、1995年) ISBN: 978-4842909783</p> <p>【参考図書】</p> <p>特になし</p>						
履修上の留意点やルール等	<p>身近にある法とかかわる出来事について普段から注意を向けることが望ましい。</p> <p>なお、受講する学生の興味関心にあわせて内容を多少変更することもありうるので、フレキシブルな姿勢で受講すること。</p> <p>周囲に迷惑をかける可能性があるため、私語は減点の対象となります。</p> <p>各回の事前・事後学習の目安: 180分</p>						
担当教員の実務経験							

成績評価の方法と基準					
評価の領域	評価基準	学習成果の割合			
		L01	L02	L03	L04
授業参加態度	提出物の状況から判断する。		8		2
レポート/作品	自らの考えを整理し、まとめられているかという点をもとに評価を行う。		8		2
発表					
小テスト					
試験	学んだ知識が身につけていることを示すことができているかという点から評価を行う。		50		30
その他					
合計			66		34

回数		授業計画
1	授業内容	ガイダンス、法学の基礎の復習
	事前・事後学習	法学の基礎についてまとめる。
2	授業内容	明治憲法制定
	事前・事後学習	明治憲法の制定過程をまとめる。
3	授業内容	日本国憲法制定
	事前・事後学習	日本国憲法の制定過程をまとめる。
4	授業内容	日本国憲法における人権
	事前・事後学習	人権の種類についてまとめる。
5	授業内容	日本国憲法における統治
	事前・事後学習	統治機構の役割についてまとめる。
6	授業内容	国体
	事前・事後学習	国体についてまとめる。
7	授業内容	最高法規
	事前・事後学習	最高法規についてまとめる。
8	授業内容	憲法尊重擁護義務
	事前・事後学習	憲法尊重擁護義務についてまとめる。
9	授業内容	緊急権
	事前・事後学習	緊急権についてまとめる。
10	授業内容	批判理論
	事前・事後学習	批判理論の概要と問題点についてまとめる。
11	授業内容	個人情報と通信の秘密
	事前・事後学習	通信の秘密についてまとめる。
12	授業内容	通信環境と法
	事前・事後学習	通信環境についてまとめる。
13	授業内容	海外の情報法
	事前・事後学習	諸外国の情報法とはどのようなものかについてまとめる。
14	授業内容	新領域法学
	事前・事後学習	法学にかかわる新領域についてまとめる。
15	授業内容	まとめ
	事前・事後学習	これまでの講義内容をまとめ、整理する。